

## 西原の散歩道 その1

## 【幸地グスク編】

県内各地では海開きをむかえ、はやくも海水浴を楽しめる季節となりました。南北に長い日本列島でも北海道に桜前線が到達し、日本全土が春を迎えています。そんな春の心地よい日差しの中、西原町の西、幸地集落の東南にある幸地グスクに行ってきました。

幸地グスクのある丘の標高は約一〇〇メートルで、東から南にかけて中城湾や運玉森が一望でき、海岸沿いに点在する小那覇、兼久、我謝の集落まで眺めることができます。さらに西は、幸地の集落を見渡せ、周囲の展望はとても優れています。



幸地グスクからの眺め

写真右上：運玉森

写真右下：中城湾

写真上：幸地集落

また、頂上にのぼる階段横に



は高いナンヨウスギの木がそびえ立ち、階段沿いにある桜並木やくちなしの木、ふと足元に目をやると、小さなナワシロイチゴやヤハズ（カラスノ）エンドウなどの植物も目につき、とてもさわやかな気持ちになります。



ナワシロイチゴの花と実

さらに、グスクの西側にある坂を下って児童公園まで歩いていくと（アスファルトが敷かれていない道なので雨の日はすべります。要注意！）、昔の人がサトウキビの汁を絞りだす時に使用したサーターグルマや若者が力だめしで使った差し石など、古くから集落に伝わるものに触れることができます。

十二世紀ごろからはじまるグスク時代、幸地グスクは「幸地熱田子」という人がおさめていたようです。また、次のような伝説も残されています。

「幸地グスクの熱田子は、津記武多グスクの津記武多按司とその妻をめくって争い、一族を滅ぼしました。津記武多按司と親しかった今帰仁按司は、敵討ちとして熱田子を攻めますが、返り討ちにあいます。しかし、

今帰仁按司の息子たちによって、幸地グスクの熱田子は滅ぼされました。」（『球陽』外巻『遺老説伝』参考）

この話に出てくる「今帰仁按司」が北山王の今帰仁按司なら、一四一六年以前ということになります。幸地グスクの歴史を感じますね。

また、古くから幸地グスクは首里城と中城城をつなぐ重要な交通路をになっていたともいわれています。昔の人々が通った道を歩いていると、感慨深い気持ちになります。

みなさんも、緑豊かな自然や古くから伝わるものに触れながら、幸地グスクを散歩してみたいかがでしょうか。

現在、町史編集係では西原町内の散歩道コースを調査中です。今後も、西原の素敵な散歩道を紹介していきたいと思っておりますので、情報がありましたら、町史編集係までご連絡下さい。

(大城)



幸地グスクの空中写真